# 有田みかんシステム

日本で初めて、みかん栽培を生計の手段に発達させるとともに、
持続可能な開発を可能にし、当地域を日本一のみかん産地に発展させた持続的農業システム

**1．みかん栽培の産業化**

室町時代より自生みかんを栽培

安土桃山時代には熊本県から小みかんを導入し、選抜を重ね「紀州みかん」を育成

⇨日本のみかん産業を牽引

**2．多様な品種の発見・栽培**

高い観察力により、数多くの優良品種を発見

みかん栽培との兼業により、農家ニーズに応える「２年生・土付き苗木」を生産

⇨産地の自立性を向上

**3．地勢・地質に応じた栽培**

地勢・地質の組み合わせに応じた「長所を活かし、短所を克服する」栽培

⇨地域全体で「有田みかん」産地を形成

**4．販売面での優位性の維持**

日本初のみかん共同出荷組織「蜜柑方」を組織。以降も時代に応じて、その形態を発展

現在では、多様な出荷組織が共存

⇨販売面での優位性の維持

日当たりの良さと
本来の果実特性を発揮する土壌条件を活かした
三波川帯・有田川北岸河口部・階段園での
普通品種栽培や早生品種の完熟栽培

適度な水分保持力と“紅の濃さ”を生む
微量要素の豊富さを活かした
秩父帯・内陸部・階段園での早生品種栽培

**持続可能な「有田みかん」産地の発展**

本システムにより、400年以上にわたりみかん栽培を継承

多くの産地が栽培面積を減少させるなか、栽培面積を維持

減酸の早さと昼夜の大きな寒暖差よる
色抜けの早さを活かした
四万十帯・北向き園での極早生品種栽培

**山頂の雑木林**：土壌の崩落・浸食を防止
**石垣の階段園**：雨水の流速を減速

⇨河川環境を維持